

肺がん検診（地域）

動 向

平成23年度における地域住民対象の巡回肺がん検診の実施市町村11団体、受診者数7,687名でした。

弊会は、一次検診を実施した後、精密検査を地域医師会にて実施している綾瀬市においては、オープンダブルチェックを実施しており、一次検診フィルムの比較読影のチェックのみならず各医師会の精密機関へのデータ提供の利便を図っている。弊会は各医師会の精密検査フィルム読影会に専門医師・放射線技師・担当職員が参加して、フィルムの比較等を行い一次検診の精度管理向上に努めている。

13年度より厚木市医師会においては、受診者の拡大を目的として集団検診から施設医療機関で実施している基本健康審査と肺がん検診の併用実施に移行した。医療機関で直接撮影を実施し一次読影は施設の医師が行い、二次読影を当協会の専門医師が行い読影結果を実施機関にフィードバックしている。23年度の実施医療機関は、68機関・読影数は19,171件であった。なお、フィルムの精度管理や精検結果把握のためカンファレンス（7月から月1回）・反省会（3月）が実施されている。

平成20年度より厚木市同様に大和市より肺がんフィルム読影依頼があり、平成22年度の実施医療機関は、47機関・読影数2,391件であった。

方法と結果

従来と同様、間接撮影による胸部単純X線撮影に加えて問診によるハイリスクグループなどの特定を行なっている。X線撮影は原則として2方向撮影であり背腹正面、左右の側面である。現在、X線撮影の分野では既にアナログによる直接、間接の区分はなくなってDRの分野に入っているが別記したように地方自治体主導のいわゆる地域の肺がん検診では未だに間接としての予算措置を遵守すべき余地があるのが現状である。

自治体による肺がん検診の参加数は12市町村であるが厚木市、大和市は前者は平成13年から、後者は平成20年から住民基健診と併用して行なっているため表4で大和市は上記にのっとらない検診が僅か279名が収載されているのみであり、厚木、大和市夫々の“肺がん検診”は表6に記載されている。

表1に受診者総数と問診によるハイリスクその他の特定数が記されているが要精検者は血痰の既往症があり0.4%28名で19名が喀痰細胞診を受診している。胸部X線検査は7,687名で男女比は約3：4であり要精検者は3.9%、302名で精検受診者は75.8%、229名であり昨年の76.6%については良好な数

値である。問診によるハイリスクグループに対する喀痰細胞診は812名であり性比をみるとこの点では男女比は逆転しているのは喫煙の影響があると思われる。

読影については前述した厚木、大和市以外の市町村では綾瀬医師会、海老名医師会が地域医師会として再読影を行なっていて従ってこの点では三重読影となっている。

表2では読影判定別であるがD、E分類では両者合せて4.0%で指摘する数値としては妥当であると思われる。Aがないのは当然であろう。

表3はハイリスクグループを含む細胞診の結果であるが依頼細胞診446名を含んで1,258名ではE判定はなかった。依頼の検体からDが2例0.4%報告されているがその後の経過については不詳である。

表4、5では検診結果を示しているが11市町村の受診者総数と精検受診者数は先づ愛川町、海老名市が夫々2千名、千名台を超えている。少ないのは二宮町、真鶴町でこれは人口数による。

夫々の精検受診率は比較的良好で69.4%を示している。肺がんは2名に認められ開成町、真鶴町の男女夫々1名づつである。年齢別は60台後半の男性及び70台後半の女性である。他に著患は発見されていない。

前後に前述している厚木市、大和市の肺がん検診について記す。前年までは年間6,000名程度の住民検診であった厚木市が住民基本健診に上乘せる形で肺がん検診で一挙約3倍強の受診者を獲得することになり現在まで続いていることは住民にとって肺がんという一疾患に対する検診よりも総合的な健診であることのほうが関心が高いのではないかと考えさせる。但し健診としては不利な条件がいくつかある。その一つは市内の各医療機関が肺がん検診に登録するのであるが最も重要である胸部X線撮影が適切に行なわれるか、また更に読影を主治医としての一次読影に適しているかについて殆んど検討されないままにむしろ数ヶ所の適切な医療機関を除いては前記の二項目については二次読影を担当する当協会の呼吸器検診部に全面委託をされているという現実がある。今後、二次読影に約60施設から年間約2万件に及ぶDVDの送付に対しその読影に如何に対処するか。

また精密検査の結果又は治療の結果が二次読影機関としては乏しい情報しか入ってこないことも問題であると考えている。表6、7に概要を示す。

関係の集計表は88頁に掲載